

**SDGsでつながる3分野の学び**

社会科の目標である、公民的資質の育成を見据えて、地理・歴史・公民の3分野でSDGs(持続可能な開発目標)の視点を取り上げました。歴史学習の最後に位置づけた、現在と未来について考察・構想し表現する活動において、SDGsの17の目標を示すことで、歴史で学んだことを現代の視点から捉えなおして学習を深めるとともに、公民の学習へと接続していけるよう工夫しました。ここでは現代社会の課題の例として、自然災害の記録の継承や、地域の復興に取り組む人々を取り上げました。



**歴史学習の終わりに** ~歴史を振り返って、未来を構想しよう

私たちはこれまで、さまざまな資料を読み解き、東アジアなど日本と関わり深い世界の歴史を学びながら、日本の歴史の大きな流れを学んできました。学習の中では、時期や権柄、比較や関連など、歴史的な見方・考え方を活用して、それぞれの時代の特色や、時代の転換もとらえてきました。ここでは、歴史の学習を振り返りながら、これからの私たちの学びや生活に、歴史の学びをどのように生かしていくことができるかを、考えてみましょう。

**現代の課題について、歴史の流れをふまえて考えてみよう**

これまでの歴史学習、なかでも「第7章 現代の日本と世界」や、地理の学習から、私たちが生きる現代社会には、市町村など身近な地域の規模・日本という国の規模・国際関係や環境問題など世界の規模で、さまざまな課題が横たわっていることを学びました。私たちは、歴史の流れをふまえて、こうした課題をどのようにとらえることができるでしょうか。歴史に学ぶことで、私たちに取組めることが見つかるかもしれません。個人や班で、現代社会的課題の一つを選んで考察し、よりよい未来を開くためにどのようなことが必要かを考えてみましょう。

**歴史**

SDGsの17の目標

持続可能な未来を築くために、私たちに必要なこととはどのようなことでしょうか。

1 持続可能な未来と私たち

2 持続可能な未来を築いていくために

3 地理的な見方・考え方

4 持続可能な未来の社会へ

5 公民

6 これからの資源・エネルギー

▲ 歴史 p.202-203

▲ 歴史 p.238

▲ 歴史 p.280-281

▲ 歴史 p.289-291

**現代社会の課題でつながる3分野の学び**

公民としての資質・能力の育成の観点から、現代社会の諸課題についての取り扱いを充実させました。たとえば歴史のp.202~203では明治時代の移民政策から「人口・移民」を、p.238では関東大震災から「震災・復興」を取り上げ、現代史(p.276~283)の学習へとつなげています。これらの内容について、「地理」では世界や日本の人口分布の偏りや、地震のメカニズムや発生地の分布を取り上げ、「公民」では人口減少や少子高齢化の問題や、自然災害と資源・エネルギーとの関わりを取り上げています。「地理」・「公民」での学びと合わせて、生徒が、自分たちが生きる社会について多面的・多角的に考察し、深く理解することができます。

**地理**

地理的な見方・考え方

地理的分野の学習では、次のようなことに気をつけて学習を進めていきましょう。

★ 位置や広がり(分布)に注目しているか(どのように広がっているか)

★ 自然環境との関わり(どこで生活しているか)(その中で生活するには、まわりの自然環境にどのような影響を与えているか)

★ 結びつき(それは、他の場所とのどのような結びつきをしているか)(なぜ、そのような結びつきをしているか)

★ 地域性(その地域は、どのような特徴があるか)(その地域は、他の地域と比べてどのような特徴を持っているか)

★ 持続可能な未来(持続可能な未来を築くために、私たちに必要なこととはどのようなことでしょうか。)

**公民**

持続可能な未来の社会へ

持続可能な未来を築くために、私たちに必要なこととはどのようなことでしょうか。

1 持続可能な未来と私たち

2 持続可能な未来を築いていくために

3 地理的な見方・考え方

4 持続可能な未来の社会へ

5 公民

6 これからの資源・エネルギー

▲ 地理 p.160, 164

▲ 公民 p.227-234

▲ 公民 p.174, 218

**公民**

これからの資源・エネルギー

資源・エネルギーの問題

1 太陽光発電(静岡県浜松市)

2 風力発電(北海道稚内市)

3 水力発電(山形県新庄市)

4 バイオマス発電(高知県高岡市)

5 地熱発電(大分県九重町)

6 これからの資源・エネルギー

▲ 公民 p.174, 218

**歴史的な視点で、過去の長期間における人口の変化を扱い、その中で、明治時代の移民政策を取り上げています。**

人口の変化と海外への移民

過去の人口を知る方法

日本の歴史と人口の移り

1 私たちの生きる時代へ

2 21世紀の日本

3 現代の課題について

4 これからの資源・エネルギー

**関東大震災による被害や、そこからの復興を扱い、その中で、行政の役割や、人物の働きを取り上げています。**

後藤新平と杉原千敏

関東大震災と後藤新平

1 私たちの生きる時代へ

2 21世紀の日本

3 現代の課題について

4 これからの資源・エネルギー



▲ 歴史 p.202-203

▲ 歴史 p.238

**現代社会の課題でつながる3分野の学び**

公民としての資質・能力の育成の観点から、現代社会の諸課題についての取り扱いを充実させました。たとえば歴史のp.202~203では明治時代の移民政策から「人口・移民」を、p.238では関東大震災から「震災・復興」を取り上げ、現代史(p.276~283)の学習へとつなげています。これらの内容について、「地理」では世界や日本の人口分布の偏りや、地震のメカニズムや発生地の分布を取り上げ、「公民」では人口減少や少子高齢化の問題や、自然災害と資源・エネルギーとの関わりを取り上げています。「地理」・「公民」での学びと合わせて、生徒が、自分たちが生きる社会について多面的・多角的に考察し、深く理解することができます。

**地理**

地理的な見方・考え方

地理的分野の学習では、次のようなことに気をつけて学習を進めていきましょう。

★ 位置や広がり(分布)に注目しているか(どのように広がっているか)

★ 自然環境との関わり(どこで生活しているか)(その中で生活するには、まわりの自然環境にどのような影響を与えているか)

★ 結びつき(それは、他の場所とのどのような結びつきをしているか)(なぜ、そのような結びつきをしているか)

★ 地域性(その地域は、どのような特徴があるか)(その地域は、他の地域と比べてどのような特徴を持っているか)

★ 持続可能な未来(持続可能な未来を築くために、私たちに必要なこととはどのようなことでしょうか。)

**公民**

持続可能な未来の社会へ

持続可能な未来を築くために、私たちに必要なこととはどのようなことでしょうか。

1 持続可能な未来と私たち

2 持続可能な未来を築いていくために

3 地理的な見方・考え方

4 持続可能な未来の社会へ

5 公民

6 これからの資源・エネルギー

▲ 地理 p.160, 164

▲ 公民 p.227-234

▲ 公民 p.174, 218

**公民**

これからの資源・エネルギー

資源・エネルギーの問題

1 太陽光発電(静岡県浜松市)

2 風力発電(北海道稚内市)

3 水力発電(山形県新庄市)

4 バイオマス発電(高知県高岡市)

5 地熱発電(大分県九重町)

6 これからの資源・エネルギー



▲ 地理 p.160, 164

▲ 公民 p.238

**公民**

持続可能な未来の社会へ

持続可能な未来を築くために、私たちに必要なこととはどのようなことでしょうか。

1 持続可能な未来と私たち

2 持続可能な未来を築いていくために

3 地理的な見方・考え方

4 持続可能な未来の社会へ

5 公民

6 これからの資源・エネルギー

▲ 地理 p.160, 164

▲ 公民 p.227-234

▲ 公民 p.174, 218

**公民**

これからの資源・エネルギー

資源・エネルギーの問題

1 太陽光発電(静岡県浜松市)

2 風力発電(北海道稚内市)

3 水力発電(山形県新庄市)

4 バイオマス発電(高知県高岡市)

5 地熱発電(大分県九重町)

6 これからの資源・エネルギー

▲ 公民 p.174, 218

**公民**

持続可能な未来の社会へ

持続可能な未来を築くために、私たちに必要なこととはどのようなことでしょうか。

1 持続可能な未来と私たち

2 持続可能な未来を築いていくために

3 地理的な見方・考え方

4 持続可能な未来の社会へ

5 公民

6 これからの資源・エネルギー

▲ 公民 p.227-234

**公民**

これからの資源・エネルギー

資源・エネルギーの問題

1 太陽光発電(静岡県浜松市)

2 風力発電(北海道稚内市)

3 水力発電(山形県新庄市)

4 バイオマス発電(高知県高岡市)

5 地熱発電(大分県九重町)

6 これからの資源・エネルギー

▲ 公民 p.174, 218

**公民**

これからの資源・エネルギー

資源・エネルギーの問題

1 太陽光発電(静岡県浜松市)

2 風力発電(北海道稚内市)

3 水力発電(山形県新庄市)

4 バイオマス発電(高知県高岡市)

5 地熱発電(大分県九重町)

6 これからの資源・エネルギー

▲ 公民 p.174, 218





### 3 自ら学ぶ力を支える紙面・内容の工夫

協働的な学習や自学自習をする際に活用しやすいよう、学び方や調査の進め方を解説するページ、資料ページを充実させました。また、ユニバーサルデザインを取り入れ、すべての生徒が学びやすい教科書を目ざしました。

#### 身近な地域を調べる学習の進め方を示したページ p.10-16

歴史学習の進め方を振り返って確認できるページを充実させ、生徒の自ら学ぶ力への支援ができるような教科書を目ざしました。ほかに「教科書の使い方」(p.II)、「時代の分け方・年表の見方」(p.4~5)、「歴史の見方・考え方と学習の進め方」(p.7~9)などのページを設けています。

2 身近な地域の歴史を調べよう

1 テーマを決めよう

2 情報を集めよう

3 具体的な調査の課題を決めよう

4 地域調査の手引き

#### 内容の確認や自学自習で活用できる資料ページ 巻末2・3

歴史の大きな流れを見開きで一覧することができる「歴史年表」(巻末2・3)では、できごとの起こった時期を確認するとともに、現代との時間的な距離感を捉えやすいように工夫しています。また、現在の県境とは異なる時代の日本の地域区分や、産業・交通を確認できる「昔の国と、都道府県の対象図」「江戸時代の産業と交通」(巻末1)を設けています。

歴史年表

#### インターネットを活用して学びを広げることができる「まなびリンク」 p.59

各章の「扉」ページに、「まなびリンク」を設けました。弊社の専用ウェブサイトから、学習に役立つさまざまな情報にアクセスすることができます。現在は、各章の学習の中で、調べ学習を広げたり深めたりすることができる外部ウェブサイトへのリンクを掲載しています。

※無料で利用できますが、通信料がかかります。また、端末の操作やインターネットの利用のルール、情報リテラシーについては適宜ご指導ください。

第3章 中世の日本と世界

これらから学習する時代

年代	1100	1200	1300	1400	1500	1550
日本	平安時代	鎌倉時代	南北朝時代	室町時代	戦国時代	
中国	(北宋)	(南宋)	モンゴル・元	明		
朝鮮		高麗		朝鮮		

まなびリンク

文化遺産オンライン

文化遺産データベース

文化デジタルライブラリー

公益社団法人 日本3x3x3協会

#### 特別支援やユニバーサルデザインの視点を大切に教科書づくり

教育のユニバーサルデザインの実現にむけ、埼玉大学 名越斉子先生に社会科全体を監修していただきました。より多くの生徒が学びやすいように、レイアウトや配色、書体などの表現を工夫しています。



図やグラフなど、教科書中の表現には、色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインを取り入れています。



本文や注など、教科書中の文章には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。

例えば、吹き出し中の読みやすい改行の工夫。

11 律令国 帝人の集み

水城の断面図

例えば、強調される場所がわかりやすい配色の工夫。